

大学生におけるファストファッションの利用と環境意識との繋がり

中川美里

指導教員 金 東勲

研究背景

ファストファッションは、低価格で流行を取り入れやすい点から、若者を中心に支持され、その市場規模を世界的に拡大させている。その一方で、大量生産・大量消費を前提とするビジネスモデルは、環境負荷の増大や労働問題を引き起こす要因として指摘されている。特に学生世代はファストファッションの主要な消費者層であり、価格やトレンドを重視する傾向が強いとされるが、環境問題への関心は一定程度存在するものの、実際の購買行動には十分に反映されていないという課題が指摘されている。

研究目的

本研究の目的は、大学生を対象に、ファストファッションの購買行動と環境意識との関係を明らかにし、若者がファストファッションを選択する理由や、環境意識が実際の行動にどのように影響しているのかを検討することである。

研究方法

大学生を対象としたアンケート調査を実施し、ファストファッションの利用頻度、購買時に重視する要因、環境問題に対する認知・意識、今後の意向などについて分析を行った。

分析結果

分析の結果、大学生はファッションへの関心が高く、環境問題への意識も一定程度持っている一方で、実際の購買行動では、価格やデザインを最も重視しており、環境への影響は優先度が低いことが明らかとなった。また、「今後は環境に配慮した服を選びたい」と考える学生も多く、環境意識と行動との間にギャップが存在することが確認された。

考察・結論

先行研究で示されてきた若者の環境意識と行動の乖離は、本研究においても支持された。一方で、トイレットペーパーなどの日用品に関する先行研究と比較すると、価格重視の購買行動が環境配慮に繋がる場合と、ファストファッションのように環境負荷を高める場合があることが示唆された。これらの結果から、環境配慮行動は個人の意識だけでなく、商品特性や市場構造によって左右されることが明らかとなった。今後は、環境に配慮した選択を「特別な行動」ではなく「現実的な選択」とするための仕組みづくりが求められる。